

創刊にあたって

神立孝一（創価教育研究センター長）

2000年11月に「創価教育研究センター」が発足した。われわれはこの創価教育研究センターの目的を「本学の歴史、ならびに創立者池田大作先生およびその淵源となる牧口常三郎先生、戸田城聖先生の創価教育の思想と実践の研究を行い、創価大学の発展に資すること」とした。

そして、この目的を実現するために、二つの活動を推進することとしたのである。

まず一つ目は、創立者池田大作先生の思想・行動をはじめ、牧口常三郎・戸田城聖先生のような資料を収集することである。この点については、1996年に設けられた「創価教育資料収集委員会」の活動を引き継ぎ、様々な資料や著作物の情報を収集してきた。具体的には、これまで未発見だった牧口先生の論文や、戸田先生の著作物の収集、書簡や関係者の証言をまとめるといった作業である。また、池田先生の膨大な論文や内外の著作をすべて一同に集めることも大きな柱の一つとした。

二つ目は、創価教育の実践の場でありその原点でもある「創価大学」自体の歴史を残していこう、ということである。このいわゆる「大学史」は、現在、歴史学の一分野として認識されるようになった。現在、「全国大学史資料協議会」を中心として、国公立の区別なく、全国の大学で作成された様々な刊行物や書類を保存管理していく方法が議論されているが、それによって、大学が果たしてきた役割を考えようというものである。ここには一つの大きなねらいが存在している。特に、伝統ある私立大学において、その設立の意味や精神的一体性を継承していくために、自らの大学史を講座の一つとして設け、創立の精神を伝えようというのである。こうした観点からすると、創価大学でこそ必要な分野であるといえよう。創価大学がどのような精神の基づいて設立され、いかなる歴史を刻み、何を果たしてきたのか。こうしたことは、後世に残していかなければならない重要な事柄だと思われる。そのためにも、創立50周年を目指し、大学史が編纂できるような資料を整えておく必要がある。この分野でも、本センターの意義は大きいといわざるを得ない。

こうしたことを基盤にして、様々な角度からセンター員を中心とした研究活動が展開されてきた。『創価教育研究』の創刊は、そうした研究活動の一環といえる。ここでは論説のみならず、およびセンターが主催してきた講演会でのスピーチ、また各種関連書物の書

評などを取り上げた。今後さらに、多方面からの研究成果が発表されていくことを大いに期待するものである。特に、21世紀に入り、教育問題は何にもまして重要であることが認識されてきた。「創価教育」それ自体が、まさに研究対象となり、広く認識されるべき時代が到来したのである。多くの研究者の方々にとって、何らかの形で貢献できれば、これに過ぎたる喜びはない。

創価教育研究センターは、発足以来、創価大学創立者である池田大作先生に温かく見守られて活動を行ってきた。そのご配慮に対し、心から御礼を申し上げるとともに、創立の精神を継承しそれを伝承していくことをお誓い申し上げるものである。その意を込めて、創立者の近影を巻頭に掲げさせていただいた。本紀要が、その号数を重ねていくごとに、創価教育の歴史を明瞭にし、その意義を深めていくことを願い発刊の辞としたい。

2002年 3月16日